

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第13期 第2年 第2回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2021(令和3)年6月20日(日) 午後2時00分～5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

アディティア ワルマン、カイ イーモンタン、グエン テイトウチャン、児玉
ノンディシャー、許 成龍、スカーフ サラ デイナ、スチエタ
スリニヴァサン、張 亮、チョ チョ カイン、ドウマヤス アリヤン、
バテネフ アルチョム、ペレーラ ラヒル サンケータ、ポール ウツザル
クマル、ボソ ミゲル アンヘル、前田 喜与美、ムハマド アイマン アリフ、
ユデク マルチン、尹 智夏、李 歡歡、レイバーマン ケビン、和田 恵麗奈

(2) 事務局

ながぬま かちょう すがはら たんとうかちょう さとう かちょうほさき うえ しゅにん いがらし しよくいん たかはし
長沼 課長、菅原 担当課長、佐藤 課長補佐、植 主任、五十嵐 職員、高橋
せんもんちょうさいん
専門調査員

4 傍聴者 2人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2021年度第2回第1日を開催する。今日は、金さん、シンさん、劉さん、ンディアエさんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入る。まずは代表者の欠員と補充についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)残りの任期も少ないので、補充しないということで決をとりたい。賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)続いて、臨時会についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料5に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

レイバーマン委員「このことで決めるつもりはないのだが、どのパターンで臨時会でも報酬は出るのか。」

事務局高橋専門調査員「臨時会も正式な会議なので、出席すれば報酬は出る。」

ペレーラ委員長「何か意見はあるか。」

スカーフ委員「せっかくなので、コメンテーターに来てもらうのがよい。」

前田部会長「事務局に聞きたいが、11月にコメンテーターに来てもらい何か新しいアイデアが生まれた場合、残りの会議の中で反映させることはできるのか。」

事務局高橋専門調査員「今期はコロナ禍で特殊な状況だが、これまでは11月にオープン会議を開催して、参加者から意見を聞いてきた。すべての意見が反映できるわけではないが、重要なものがあれば反映してきた。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、3つの案からどうするか決めたい。1つ目は、通常の会議として開催して参考人を呼ぶ。2つ目は、参考人は呼ばずに通常の会議として開催する。3つ目は、オンラインのウェビナーのようなかたちで講演会を開催する。1つ目に賛成の人は手を挙げ

てください。(18人) 2つ目に賛成の人は手を挙げてください。
(2人) 3つ目に賛成の人は手を挙げてください。(1人) では、
通常の会議として開催して参考人を呼ぶこととする。このあとは部会審議だ。
全体会の再開は16時25分からとする。」

【国際コミュニティ部会】

前田部会長「それでは、国際コミュニティ部会を始める。まずは、事務局から説明を
願う。」

(事務局高橋専門調査員が資料3、3-1に基づき説明)

前田部会長「何か質問はあるか。(なし) それでは、異文化交流と地域貢献、
オンライン化の2つにわけて意見交換をしたい。まずは、異文化交流と地域
貢献から何かあるか。」

グエン委員「ラウンジの再検討という案に賛成だ。以前にも、ラウンジの課題として
は場所の確保や運営方法などがあるといった審議をした。私の意見としては、
図書館や市民館、区役所などの身近な場所がよいのではないかと
思っている。区役所は実際に手続きをする場所でもある。大きな場所
ではなくても、ワンコーナーでもよいかも。運営については、国際交流協会やNPO
などの知識のあるスタッフがいるとよい。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-3に基づき説明)

前田部会長「何か意見はあるか。」

スカーフ委員「質問だが、川崎市には国際交流センター以外の施設はあるか。それら
は連携しているか。」

事務局高橋専門調査員「川崎市の場合には、各区に市民館という施設がある。ただし、
外国人や多文化共生に特化した施設ではないので、いろいろな人がいろいろな
目的で利用する。ほかには、川崎区にふれあい館という施設がある。」

張副委員長「川崎市の場合、基本的には対面の相談窓口はこのセンターだけだ。た
とえば、麻生区の人はこちらまで来るのは遠いだろう。提案としては、相談窓口
を各区に設置して、国際交流協会の相談員を週に1回派遣して対応するとい
うのはどうか。もし、相談員の派遣が難しいのであれば、各区で採用したら
どうか。」

事務局高橋専門調査員「各区で週に1回ということだが、言語の問題はどうするの
か。相談したい人が英語や中国語だけとは限らない。センターの相談員も英語

と中国語以外は週2日というような状況で、それをローテーションで7区をまわすのは現実的に難しい。それと、このセンターでも相談員も確保するのは苦労していて、各区で人材を確保するのは難しいだろう。かわりに、現在は区役所にタブレットを置いていて、リモートでつながるようにしている。ラウンジに求められているのは、相談だけではないということも大事なポイントだと思う。」

和田委員「最近、川崎市で新しい動きがあったと思うが、それをふまえて話し合うとよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「新しい動きというのは、来週の土曜日に開催する生活オリエンテーションのことでと思う。まず、生活オリエンテーションについては、2017年度に提言として出されている。今回は、試行的に実施するものなので、提言が実現するわけではない。実は、生活オリエンテーション以外にもいくつか企画を考えているが、多文化共生推進課としては、そうした企画を通して、ラウンジも含めたニーズの調査をしたいと考えている。」

許委員「ラウンジについて検討するのであれば、やはり入口の部分が大事だと思う。つまり、なぜ再提言するのかということを確認にした方がよい。」

前田部会長「個人的には、資料にもあるように市民と行政をつなぐ中間支援ということが重要だと思う。」

スカーフ委員「資料からも、ふれあい館や国際交流センターが知られていないので、一番問題なのは情報が届いていないことだと思う。それと、それを解決するためにもこの前、先生が話していたように、エスニック・レストランなどに行ってパンフレットを置かせてもらうのはどうだろうか。」

前田部会長「一旦ここまでにして、オンライン化についても意見交換したい。」

和田委員「川崎市のホームページに関してだが、もう少し外国人の方にもわかりやすくしてほしい。機械翻訳の機能もあると思うが、たとえば新型コロナウイルスの情報を確認しようと思ったらPDFがたくさんあって、PDFだと機械翻訳も使えない。大事な情報なので、やはり最新情報をもう少しわかりやすくできるとよい。AIチャットボットも含めて、外国人向けのホームページの改善というのは提言としてどうか。」

事務局高橋専門調査員「今いただいた意見は、基本的にその通りだと思う。一方で、ホームページのことはシステムや契約に関わってくる部分もあるので、なかなか難しいというのが正直なところだ。」

李委員「先ほど、区役所にタブレットが置いてあってリモートに対応しているという話だったが、それでも区役所に行かないといけない。相談窓口のオンライン化はできないのか。」

事務局高橋専門調査員「実は、現在、国際交流協会でオンライン相談に対応できるよう準備を進めている。近いうちに実現すると思う。」

ステータ委員「先ほどのPDFの問題などはAIチャットボットが多言語化したら解決できるのではないかと思う。」

事務局高橋専門調査員「AIチャットボットという名前だが、基本的にはすでにある情報にたどりつきやすくするためのものなので、本当に優秀なAIが答えてくれるわけではない。」

前田部会長「私も電力会社のサイトでチャットボットを利用したことがあるが、テンプレートの対応しかしてくれず、結局、電話で問い合わせたということがある。」

張副委員長「AIチャットボットを多言語化するとしたら、我々がやるのか。我々が回答をつくってもよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「民間のチャットボットではないので、市が責任をもって回答する必要がある。みなさんに回答をしてもらうということにはならない。」

アディティブ委員「PDFは機械翻訳が難しいということだったが、PDFにする前のデータはあるのではないか。」

事務局高橋専門調査員「文字化けしないようになど、PDFにしているのにも理由がある。たとえば、Google翻訳ならPDFも翻訳できる。少し工夫すれば、自分でできなくもないので、提言にするほどのことではないと感じる。」

前田部会長「資料にもあるが、国際交流協会の企画やイベントのオンライン化も少しずつ進んでいるようだ。」

尹委員「AIチャットボットで質問に対する回答がなかった場合の問い合わせ先はあったりするのか。」

事務局高橋専門調査員「おそらく近いものが候補として出ると思うが、求めている答えかどうかはわからない。」

尹委員「たとえば、Yahoo!知恵袋だと準備された回答ではなく、誰かが答えてくれると思うが、市のチャットボットでも答えられる人が答えるという仕組みになる計画はあるか。やはり責任が伴うので難しいか。」

事務局高橋専門調査員「市がプラットフォームだけ提供するというのは難しいと思

う。外国語で知りたいことや質問があれば、たとえば国際交流センターの相談窓口もある。そこまでしてチャットボットを多言語化したり、誰でも回答できるようにしたりするメリットを感じない。」

チョ委員「提言の文章を書いているのは事務局か。」

事務局高橋専門調査員「事務局が案を作成して、代表者がそれをもとに修正したりしている。」

チョ委員「過去に提言する際に、横浜市のラウンジに行ったとのことだが、誰が行ったのか。」

事務局高橋専門調査員「代表者と事務局で行った。」

前田部会長「そろそろ時間なので、提言の候補を絞り込みたい。これまでの様子から、国際交流協会の企画やイベントのオンライン化については削ってもよさそうだが、引き続き審議したいという人はいるか。（0人）では、候補から外す。次に、多文化共生ラウンジのみ候補にすることに賛成の人は手を挙げてください。（6人）では、多文化共生ラウンジとAIチャットボットの2つを候補にすることに賛成の人は手を挙げてください。（5人）今日は3つから2つに絞ることができたので、ひとまずここまでとしたい。」

和田委員「川崎区で外国人のニーズを聞く予定があるとのことだったと思うが、そのフィードバックはこの会議にももらえるか。」

事務局高橋専門調査員「とくに会議のためにまとめたりする予定はないが、様子やわかかったことなどは情報提供したい。」

グエン委員「提言の数は何個という決まりはあるか。多文化共生ラウンジだけだと、再提言なので弱く感じる。AIチャットボットの方が実現しそうだし、あれば便利なので2つとも提言にしたらどうか。」

李委員「提言をいくつにするかという話だが、私の理解では量で勝負するか、質で勝負するかという話で、私は質で勝負すべきだと思う。AIチャットボットは、かかるコストに比べて効果が小さいと思う。質問があれば、国際交流センターの窓口で相談すればよい。多文化共生ラウンジについてだが、横浜のラウンジの担当者を参考人として呼ぶことはできるか。」

事務局高橋専門調査員「依頼はできるが川崎市の職員ではないので必ず来てもらえるかどうかはわからない。」

前田部会長「そろそろ時間だ。次回の資料について何かリクエストはあるか。」

張副委員長「各区の多文化共生推進課がやっていることについて、情報を希望した

が何も資料がないので説明が欲しい。」

事務局高橋専門調査員「ほかの議論が盛り上がっていたので、説明しなかった。まず、各区に多文化共生推進課はない。各市民館でやっている事業については、活動報告書を準備してきた。」

張副委員長「各区にないのか。」

事務局高橋専門調査員「幸区や麻生区には、市民が中心の多文化共生推進事業実行委員会というのがあるが、すべての区にあるわけではない。」

前田部会長「時間を過ぎていたので、今日はこれで終わりにする。」

【安心生活部会】

児玉部会長「今日の部会を始めたい。まずは事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料4、4-1に基づき説明)

児玉部会長「何か質問はあるか。」

ペレーラ委員長「介護保険の認定調査の通訳について、資料に自分たちに何ができるかも考えて欲しい、とあるがどういう意味か。」

事務局五十嵐職員「代表者会議のキーワードの1つは『要求から参加へ』だ。ただ通訳が必要だと要求するだけではなく、たとえば自分たちもボランティアで協力するといったことを考えて欲しいという意味だ。」

ペレーラ委員長「理解した。」

児玉部会長「来週、日曜日にオリエンテーションがある。オリエンテーションは2017年に提言になっているが、今度のオリエンテーションに参加してみて、もう一度再提言してもよいかもしれない。」

ボソ委員「医療・保険と保育園・幼稚園に関してだが、全然かたちが見えてこない。

別のテーマにした方がよいのではないか。」

カイ委員「保育園・幼稚園のことは外国人だけの問題ではないと感じる。園によっても状況が違ったりするので、候補から外した方がよいかもしれない。多言語ツールの作成については、いろいろな分野があると思うが、それはどの分野でもできるのか。」

児玉部会長「個人的には保育関連で何かつくればと思っている。」

バテネフ委員「これまでいろいろと議論してきたが、結果的に現実的なのは多言語ツールの作成のような気がする。」

児玉部会長「オリエンテーションも大事だと感じる。」

ペレーラ委員長「医療・保険と保育園・幼稚園については私もこのテーマを提案した1人なのだが、これまでの審議の様子だとハードルも高く、みなさんの関心も低いと感じている。オリエンテーションについては、今度、試行的に実施するという話があったと思うので、もし再提言するのであればその結果もフィードバックした方がよい。防災に関しては、前回、南野先生が東京都のコミュニティリーダーについて紹介してくれて、それが気になっている。もう少し詳しく知りたい。」

児玉部会長「医療・保険と保育園・幼稚園について、厳しいのではないかという意見があったが、提言の候補から外してもよいか。外してもよいという人は手を挙げてください。（全員賛成）では、候補から外す。ほかのテーマで何か意見はあるか。」

ポール委員「防災無線について、日本人へのアナウンスが不十分になるとのことだが、具体的にどういうことか。」

事務局五十嵐職員「日本語以外の言語を流すと、そのぶん日本語の回数が減るという意味だ。」

ボソ委員「限られている時間のなかで、できるだけ多くの人を助けるためにはどうする必要があるかということを考えるべきだと思う。外国語を追加してくれというよりも、私だったら日本語を理解しよう、覚えようと考えよう。」

ペレーラ委員長「最初は私もなぜ英語でアナウンスができないのか、と考えていたが、検証結果も含めて逃げ遅れが発生するという説明を聞いてたしかにそうだと思う。南野先生もアナウンスだけではなく、事前の準備が重要だと話していた。たとえば、オリエンテーションで防災についても説明したらよいのではないか。」

ドウマヤス委員「先ほども意見が出たが、オリエンテーションの結果をフィードバックしていくことが大事だと思う。」

レイバーマン委員「オリエンテーションは試行的に実施するということだが、私たちも充実したオリエンテーションになるように応援して、貢献したい。年に1回だけではあまり意味がないかもしれないので、定期的にサイクルを決めたり、区やいろいろな団体とも連携できたりするとよい。防災・災害の情報は重要だが、2時間くらいの時間のなかですべてを伝えることは限界がある。それでも、川崎市に住む人たちにとっての最初の入口として大切だと思う。うまくいけば、よい提言になると思っている。」

ユデク委員「私もオリエンテーションはよいと思う。」

ムハマド委員「防災・災害についてもオリエンテーションでできる部分があると思う。」

カイ委員「オリエンテーションの説明は市の職員がするのか。たとえば、通訳のボランティアなど募集はしないのか。」

児玉部会長「代表者の何人かには通訳ボランティアの依頼が来ていると思う。」

事務局五十嵐職員「オリエンテーションについての意見が続いているが、多言語ツールの作成についてはどうか。」

児玉部会長「個人的には、何かかたちとして残るものをつくりたい。」

ボソ委員「個人的には、多言語ツールの作成が一番よいと思っている。」

児玉部会長「そろそろ時間だが、今日の段階では提言の候補はオリエンテーションと多言語ツールということでよいか。コミュニティリーダーについてはまだ私たち自身がわかっていないことが多いので、次回、事務局に資料を準備してもらって勉強するという事かどうか。（異議なし）次回の資料についてリクエストはあるか。」

事務局五十嵐職員「コミュニティリーダーについては、調べて資料にする。」

ボソ委員「多言語ツールの候補について、とりあえず資料にあがっているものの多言語化などの状況を調べて欲しい。」

カイ委員「今すぐには思い浮かばないのだが、メールでリクエストでもよいか。」

事務局五十嵐職員「それでは、締め切りも含めてメールで連絡する。」

児玉部会長「それでは、時間なのでこれで部会を終わりにする。」

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、国際コミュニティ部会から部会報告をお願いする。」

前田部会長「今日はこれまでの審議を振り返って、提言の候補を絞った。候補は、ラウンジの再検討とAIチャットボットの多言語化になった。今回は2つまで絞ったが、AIチャットボットの多言語化に関しては、次回までに全員が実際に確認して、本当に提言にするかどうかを決めることにした。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。（なし）1つ質問がある。ラウンジは過去にも提言が出ていて、その実現が難しいのでオリエンテーションという提言が出たということを知った記憶があるが、再提言するという事か。」

前田部会長「2015年度に提言が出たときと状況も変化しており、やはり必要だと考えるので再提言したいということになった。どうすれば実現に近づくのかという部分は、これから深めていく。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、次に安心生活部会から報告をお願いします。」

児玉部会長「今日はこれまでの審議の振り返りと提言候補の絞り込みをした。候補は2つだ。1つは、多言語ツールの作成だ。どのようなツールを作成するかはまだ決まっていない。もう1つは、オリエンテーションだ。オリエンテーションは2017年度にも提言しているが、まだ実現していないので再提言することにした。それと、提言の候補ではないが、前回、南野先生からコミュニティリーダーという話があり、関心のある人がいたので次回の会議で勉強することにした。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

グエン委員「オリエンテーションについてだが、配られたチラシにもあるように、現在、川崎市が実施しているが提言にする必要はあるのか。」

児玉部会長「6月に多文化共生推進課がはじめてオリエンテーションをするということだが、これは試行的なものだ。継続してやってもらうためにも提言にしたい。」

グエン委員「6月のオリエンテーションに参加してみて、そのフィードバックなども提言に反映していくかたちか。」

ペレーラ委員長「そうだ。」

ペレーラ委員長「ほかに何か質問はあるか。」

前田部会長「多言語ツールの作成についてだが、介護と保育園は候補にあがっていて、ほかにも募集中とのことだが、何か分野などは決まっているのか。」

児玉部会長「まだ決まっていない。」

ペレーラ委員長「ほかにあるか。(なし)それでは、次は実行委員会報告だ。臨時会実行委員会については前半の全体会で審議したので省略とする。ニューズレター編集委員会の報告をお願いします。」

スカーフ委員「今日決めたのは、まずはNo.71の記事だ。ワンストップセンターの紹介と保育サービスについて記事にすることにした。もう1つは、発行回数について話し合った。昨年度はコロナの影響で発行が2回だけだったが、今年度は3回発行することにした。No.72の記事としては、マイナンバー

カードと公園、それと子育て・教育について記事にすることにした。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。（なし）それでは、今日の議事は以上だ。

事務局から事務連絡をお願いする。

【事務連絡】

- ・生活オリエンテーションの開催について

ペレーラ委員長「それでは、これで今日の日程は終了だ。次回は9月12日、日曜日、国際交流センターで開催する。これで2021年度第2回第1日の会議を終わりにする。」